

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策I-1-1 企業の競争力強化
---------	---------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	しまねブランド推進課長 福岡 直	電話番号	0852-22-6858
----------	------------------	------	--------------

事務事業の名称	浜田港ポートセールス推進事業		
目的	(1) 対象	浜田港の利用企業及び利用の見込まれる企業	
	(2) 意図	浜田港を利用した海外取引を拡大する	
事業概要	○国際貿易港である浜田港を利用した海外取引の拡大を図るため、浜田港振興会の活動に要する経費を負担する。 ○浜田港とロシアウラジストク港を結ぶ航路を利用した対ロシア貿易の拡大を図るため、浜田港振興会に対してプロジェクト経費を負担する。(ロシア貿易発展プロジェクト)		

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	目標値		3,000.0	3,300.0	3,600.0	3,900.0	TEU
	式・定義	取組目標値						
		(浜田港振興会調査)	実績値	2,481.0	2,918.0			
		達成率	-	97.3	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
	式・定義	取組目標値						
		実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	38,407	34,371
うち一般財源(千円)	38,407	34,371

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基じた現状)

<ul style="list-style-type: none"> <li>浜田港(三隅港を含む)貿易実績 ※平成28年 歴年 輸出額：4,726百万円(対前年比351.9%) 輸入額：11,105百万円(対前年比79.2%) ロシア向け輸出額：379百万円(対前年比53.6%)</li> <li>国際コンテナ貨物取扱量：2,918TEU(対前年比117.6%)</li> <li>ロシア向け中古車輸出台数：739台(対前年比123.0%)</li> </ul>
---

## 6. 成果があったこと(改善されたこと)

<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年5月に浜田港拠点化研究会を設立し、石見全域、出雲市、広島県北部に至る広域的な集荷体制を構築し、市町等と連携したポートセールスを実施 構成 行政、経済団体、民間企業、学識経験者</li> <li>大口荷主の獲得などにより、コンテナ貨物取扱量が対前年437TEU(17.6%)増加</li> <li>集荷地域別中古車輸出助成の開始等により、ロシア向け中古車輸出台数が増加</li> </ul>
--

## 7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

<p><b>①困っている「状況」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般に、「地方の外資港湾は概ね50km圏内の企業は利用可能性がある」とされているが、県西部地域等に所在する企業(製造業、卸小売業等)の輸出入貨物を十分に取込めていない。</li> <li>船社から取扱貨物量を増やすよう求められ続けている。</li> <li>ロシアと日本の経済協力が進展しているなかで、浜田港を利用したロシア貿易(輸出)については、中古車以外に「柱」となる貨物が創出できていない。</li> </ul>
<p><b>②困っている状況が発生している「原因」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>浜田港の国際コンテナ航路は、週1便しかなく、他港と比較して海上運賃が割高であることなどから、企業にとって浜田港の利用メリットが出にくい。</li> <li>世界的にコンテナ船の大型化が進んでいるなか、現在の浜田港の貨物量は船社にとって十分に採算がとれるものとなっていない。</li> <li>ロシア貿易は、行政手続きの煩雑さ、代金回収リスク、カントリーリスクなどに十分に対応していく必要があることなど、県内中小企業にとって参入障壁が高い状況が続いているなか、県単独の取り組みには限界がある。</li> </ul>
<p><b>③原因を解消するための「課題」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業毎に浜田港利用するための課題と対策を分析し、新規、大口荷主の獲得によって着実にコンテナ取扱量を増やしていく必要がある。</li> <li>ロシアに限らず、幅広く浜田港利用につながる新規輸出入案件を発掘していく必要がある。</li> <li>航路維持が図られるよう、引き続き、既存船会社との関係を維持・強化する必要がある。</li> <li>浜田港に限らず、境港などを利用したロシアとの貿易を行う県内企業を幅広く支援する体制を整備する必要がある。</li> </ul>

## 8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

<ul style="list-style-type: none"> <li>新規・大口荷主獲得のための助成制度を拡充する。</li> <li>既存の荷主企業に対しては、経営方針・意向に応じた動きかけを実施する。</li> <li>浜田港拠点化形成研究会の枠組の活用により、浜田港利用可能性のある企業の掘り起こしを実施する。</li> <li>航路維持、拡大に向け、定期的な訪問、意見交換等により船会社との関係の維持・強化に努める。</li> <li>海外有望市場の動向を踏まえ、貿易商社及び県内企業と浜田港振興会が連携し、輸出入案件の発掘から継続的取引に至るまでの取り組みを実施する。</li> <li>鳥取県と連携し、県内企業のロシアビジネスの支援体制を新たに構築する。</li> </ul>
--